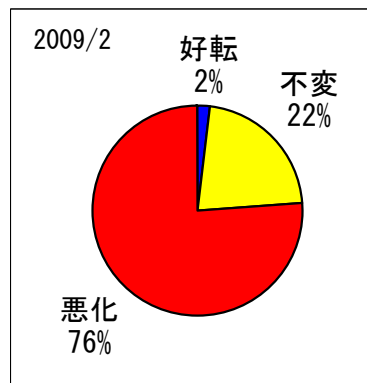
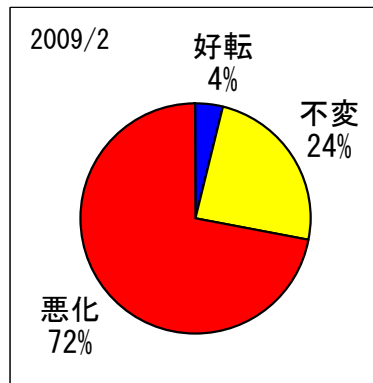
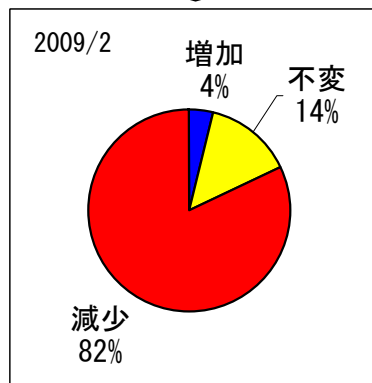
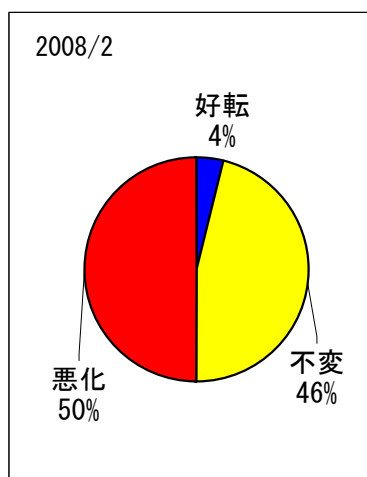
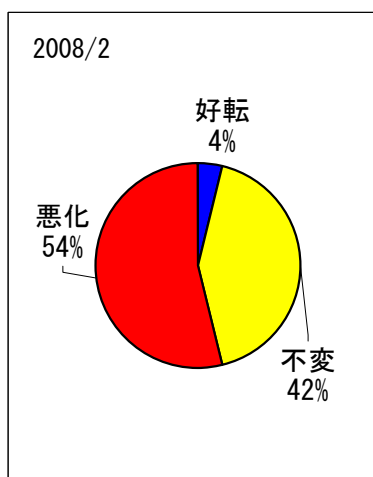
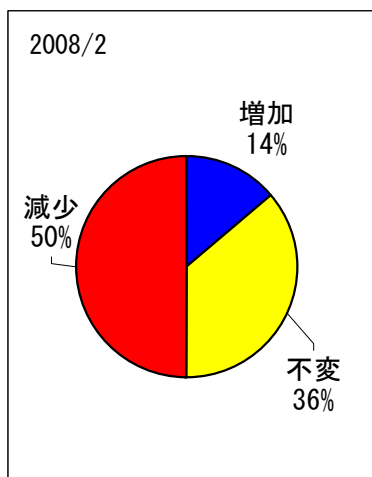


# データから見た業界の動き (平成21年2月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	08/2	09/1	09/2	08/2	09/1	09/2	2008/2	2009/1	2009/2
対前年,前月,当月	08/2	09/1	09/2	08/2	09/1	09/2	2008/2	2009/1	2009/2
売上高	-20	-65	-70	-47	-60	-83	-36	-62	-78
収益状況	-45	-80	-65	-53	-63	-70	-50	-70	-68
景況感	-40	-85	-75	-50	-77	-73	-46	-80	-74

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

## ■ 概 況

本県の2月の景況は、全業種のD I 値では、売上高-78 (前年同月比-42)、収益状況-68 (前年同月比-18)、景況感-74 (前年同月比-28)と、依然として厳しい状況である。

業種別の製造業のD I 値では、売上高-70 (前年同月比-50)、収益状況は-65 (前年同月比-20)、景況感-75 (前年同月比-35)となっており、コメントにも見られるように工場稼働率の低下、一時帰休など操業時間の調整を強いられている状況が見られる。

非製造業のD I 値では、売上高-83 (前年同月比-36)、収益状況-70 (前年同月比-17)、景況感-73 (前年同月比-23)となっており、例年落ち込む2月期に輪をかけて悪化の状況が見て取れる。

全体的に年度末までじっと耐えるしか無い現状であり、一般消費者相手の業種では、春シーズンに期待したい意見も見られるが、景気の底はまだこれからで先行きはきわめて不透明と見る向きもあり、来年度の景気動向によってはますます淘汰が進むかもしれないと危惧される。

## ■ トピックス

昨年未から世界規模での経済不況が始まり、地方でも年明けから深刻な状況が続いている。景気の底上げには、中小企業の事業活動の活性化が必須であると思われます。2月の調査では、各業界における企業の事業活動の障壁となっている要因について聞いた。

▼洋菓子製造／マスコミの連日の企業の業績悪化や不況の報道が、消費マインドの低下を助長している。

▼製麺／高齢化が問題。PRイベントへの傘下や新規展開もままならない。

▼ワイン／ワイン原料ブドウの確保。ワイン用から生食用に切り替える、高齢化により廃業するブドウ農家がある。

▼織物／産地が得意とする中高級品の売れ行きが悪化。原油は下がったが、染色・整理の薬品の値が下がらずコスト削減できない。保証協会の審査が厳しく借入れが難しい。

▼アパレル／業界では価格決定権を大多数が取引先が持っており、主体的な動きができない。仕事待ちであり、自ら仕事を作る意識がない。

▼砂利／公共事業・民間需要の低迷による建設・生コン業界の不況。

▼生コン／公共事業の減少と民間需要の減退。

▼貴金属／資金繰り。

▼事務機文具／小額の商品にまで及ぶ価格競争。国等の機関からの発注に顕著であり、その見積もりに追われる。

▼衣料品／衣に対する消費意識の低下。アジアにシフトした低価格商品。新しい商品を企画しても利益につなげにくい状況。

▼食肉／新規参入規制などの様々な規制。小規模の業者は必要な設備投資についていけず、資本力のある大手だけが生き延びる構図がある。

▼水産物／後継者不足と資金難による近代化の遅れ

▼石油／約半分のSSが赤字経営で資金繰りが厳しい。

▼商店街／高齢化、活性化への意欲の減少

▼不動産取引／宅建業者の土地等の仕入れへの融資に対する金融機関の審査の厳しさ。

▼宿泊業／入湯税。固定資産税。円高による海外からの観光客の落ち込み。景気悪化による行楽客の減少。

▼美容業／安売り店の台頭。

▼廃棄物処理／企業の生産活動の低迷、大企業の撤退

▼自動車整備／低価格車検の台頭による競争激化

▼建設業（総合）／受注量の減少とともに金融機関では融資対象業種として受け止めてもらえていない。

▼型枠／工事量の減少。

▼鉄構／官公・民間需要の停滞による工場稼働率の低下。請負単価の低下・上昇難による採算割れ。

▼電気工事／古い体質。3kのイメージ。高齢化による組合員の減少。電気工事に新規に携わる人の減少。

▼管設備／資材の値上げ分を設計単価に反映できない点。

▼バス／買い手市場のなかでコンプライアンスの欠如した旅行業者がいること。

## ■ 業界の声

### 【製造業】

- 食料品（水産物加工）／消費動向が低調で特に高額商品の荷動きが鈍く、売上は不調。ビッグサイトで開催されたスーパーマーケットトレードショーに出展し、約500社のバイヤーと面談、今後につなげたい。
- 食料品（洋菓子製造）／OEMは前年同月比110%。台湾輸出は半減。低価格帯はますますだが、高額商品に買い控えの傾向有り。
- 食料品（ワイン）／中央会の協力で京都市にて試飲会を開催。参加者より良い反響あり。販路拡大につなげたい。
- 繊維・同製品（織物）／3月は裏地袖裏の減反が進み、状況はかなり悪くなる。また整理加工業者が操短に入る。
- 木材・木製品製造／販売価格の上昇により、一時的に売上が増加。ただし景況感が悪い。
- 紙・紙加工品／重油価格と原材料費は前月に続き下落。出荷減によるマイナスをある程度カバー。売上減少は来月以降も見込まれる。
- 窯業・土石業（砂利）／河川護岸工事他工事量の減少により対前年比売上が減少。新規SCの出店計画の延期など景気は厳しい。
- 一般機器／3、4月の受注見込みは現状通常の15%程度しかない。
- その他（貴金属）／ほとんどの事業所で昨年の半分程度の受注・売上となっている。買い控えというより、出費抑制の自己防衛本能が見られる。

#### 【非製造業】

- 卸売（衣料品）／これから底値という意識があり、新規受注量の低下が顕著。フェイス在庫の不足が始まると予想。
- 小売（SC）／消費者の価値観の多様化、消費者の消費エリアの広域化に対して、しっかりとしたビル全体のコンセプトを再確認しつつ、各テナントの相乗効果が必要。
- 小売（食肉）／客数・客単価ともに落ち込み。量販店が一斉に安値路線に切り替えており、小売専門店が苦戦。表示方法が複雑になり新たにラベルプリンター等を買換えなければならず、これを機に廃業する店舗も出てきている。
- 小売（水産物）／客数の減少および客単価が大きく減少している。在庫を多く持てない現状。
- 小売（電機製品）／地域店が推進しているオール電化の取扱店数が増加し、取扱台数も増加傾向にある。販売単価も1契約、100万円前後の価格で店の売上げ及び粗利益も確保出来ている。
- 小売（石油）／各SSは2月の元売りの値上がり分（2～3円程度）を価格転嫁できず苦慮。3月は2月の原油価格の値上がりや為替レートの変動により、3円程度の値上げになると予想。
- 商店街／中心商店街の核であるショッピングセンターの閉店で通行料減少と売上減少。
  
- 廃棄物処理／企業の生産活動の低迷のため、リサイクルの流通もストップしている状態。
- 建設業（型枠）／昨年来の不況で多くの民間工事は計画中止になり、仕事量の減少は先が見えない。
- 建設業（鉄構）／鋼材H型鋼の値下げにより受注価格の中の加工費が下落。首都圏における工事の延期、中止により150万トンの鉄骨需要が消滅。これまで首都圏の物件を受注していた県内の業者にも手持ち工事が無くなり、工場稼働率が30%程度まで落ち込み。
- 設備工事（管設備）／組合員の工事は全体的に減少。材料費の上昇に耐えている。昨対で共同工事が増加。（特に検定満了量水器取替に伴う止水栓修理）
- 運輸（トラック）／食品業界もじわじわと仕事量が減少している。貨物のロットが大・中から、中、小ロットまたは小口化してきたために、輸送システムの見直しが発生しており、今後さらに厳しくなると思われる。